

サカ、ハカ、バカ ～ねんりんピック長崎大会に参加して～

群馬惑惑倶楽部 丸山 徹

開会式が行われる諫早トランスコスモススタジアムは大会参加者約 10,650 人をグラウンドに整列させられるほど巨大な競技場で、その後 1 万人が上がってもスタンドはまだスカスカだったので、ワールドカップの会場に招致できそうに思えた。常陸宮妃殿下や鈴木大地スポーツ庁長官も出席しあいさつされるほどの大会なのだ。大人数で踊ってくれた歓迎のマスゲームも見事だった。

入場行進の際に吹奏楽団により「長崎は今日も雨だった」や長崎県出身の福山雅治の「家族になろうよ」など長崎県に関係のある曲が多く演奏されていたが、私がファンクラブに入っているさだまさしの「がんばらんば」も演奏されてうれしかった。この「がんばらんば」は体操になっていて、長崎県民はみな学校で踊ったらしい。実施、式後の交流会場で実演指導され、私も座ったままだが明日のためのストレッチ代わりに何度も踊った。

同じ大村市で行われる 3 つの競技の合同開会式で、39 歳の大村市長は元ラグビー選手ということで、はきはきとした口調でさわやかにあいさつをし、大拍手をもらっていた。

初戦は気合いの入った地元長崎 A との対戦で、前半圧倒されて 3 トライされてしまった。後半ようやく 2 トライして追いついたが、結局 10-22 で敗れてしまった。しかし、スクラムから No.8 が持ち出してセンターの私が直接もらって突進する「ハナマル」のサインが決まってチャンスを作り、そのラックから 2 次攻撃をして快速バックスが走りきってトライするというパターンができてきた。慣れないマウスピースとヘッドキャップをしてのプレイは辛かったし、5 年前にアキレス腱を切った人工芝だったが、なんとかがんばれた。

夜の懇親会、参加 26 チーム中 18 チーム集まって盛り上がった。なお、8 チームは参加しないのではなく 525 人も入れる会場がないので地元九州のチームに遠慮してもらったのだそう。こんな年になっても、体中に湿布を貼ってでもラグビーをしたいバカ者たちの集まりなのだ。勝ち負けはほとんど関係なくて、まだプレイできることがうれしくてたまらないのだ。「できれば芝生の上で死にたい」と豪語している人も私を含めて多数いる。この場に先日亡くなられた会長の姿がないのが、ずいぶんお世話になった方なので残念でたまらない。ラグビージャージ姿の写真を、会長代行が首から提げてずっと持ち歩いてくれているのがうれしい。

2 戦目は、最初に私が敵の隙をついてペナルティキックからチョン蹴りして 3～4 人抜いて独走トライをしたことでペースをつかんだ後、前日できあがった「ハナマル」などから私がある程度前に出て敵を何人も引き付けたラックや、私のハードタックルで相手を仰向けに倒してボール奪ったラックから展開したりして、快速ウィングが一人で 4 トライもして 36-10 で神戸市に大勝することができた。

帰りの車内で埼玉から卓球に参加した女性と隣り合わせになり、競技こそ違うけれどこんな年までできる喜びの話で盛り上がった。ラグビーは「きつい、きたない、きけん」の 3K のイメージが強く敬遠されがちだったが、今年のワールドカップで南アフリカに勝ったことや五郎丸ポーズもあって一躍人気再燃してきている。一方卓球は運動神経のない子が入る部活でださくて暗いイメージだったが、福原愛ちゃんの人気で徐々にイメージアップし、オリンピックでも毎回メダルを取れるようになったし、男子も水谷選手がドイツリーグで鍛えた結果激しい動きでメダルを取ったことですっかりイメージが変わったようだ。私たち高齢者が頑張っている姿を見せることで、生涯スポーツとしてより定着させていきたいと思う。

最後の晩の酒宴で、「マネージャーのお陰でこのねんりんピックへの参加をはじめ小樽などの遠征に行ける」と感謝の言葉が相次いだ。私は「最年長の 75 歳でありながらフル出場し、スクラムハーフとして必ずポイントからポイントまで走り、腰をしっかりと落として正確なパスをしている副会長をたたえたいと思う」と発言した。みなさんも同感だと言ってくれた。私のモットーとしている「あせらず、あわてず、あきらめず」をみごとに実践しているので、尊敬するとともにお手本にしたいと思っている。